

なんとなく、クリスタル（1981）

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 日本
色彩 Color
時間 92分
初公開日 1981/05/23

【解説】
第17回文藝賞を受賞した田中康夫の同名ベストセラー小説を、松原信吾が東海洋士、田中晶子とともに脚色し映画化。劇中では洋楽がふんだんに使われ、音楽使用料だけで3000万円もかかったと言われている。
両親がシドニー勤務で不在のため、女子大生の由利は青山の高級マンションで淳一と同棲していた。由利はファッションモデルのバイトをしていて、毎月四十万円の収入があった。淳一も大学生だがプロのミュージシャンとして活躍しており、ツアーで全国を飛び回っている。由利はディスコで正隆という男と知り合い関係を持つが、淳一のときのような快感を得ることができなかった。淳一がツアーから帰ってきて数日後に、シドニーの両親から「もうすぐ帰国する」という手紙が届いた。

【クレジット】
監督 松原信吾
製作 中川完治
原作 田中康夫
脚本 松原信吾
東海洋士
田中晶子
撮影 長沼六男
美術 横山豊
編集 後藤彦治
音楽 C B S ソニー企画制作 8 部
助監督 長尾啓司
出演 かとうかずこ 由利
亀井登志夫 淳一
清水善三 正隆
有田奈穂子 早苗
横山エミー 江美子
壇ちひろ 直美
原田美枝子 真紀子
前橋汀子